

ほとけのいのちをいただく

はる しゅん やさい くだもの おい
春は旬の野菜や果物が美味
しい季節でもあります。そこで、
今回は 親鸞聖人の曾孫にあたる
覚如上人がつくられた
『口伝鈔』に出てくる話です。
あるとき、親鸞聖人は、今年
の大河ドラマで「存じの北条氏
の邸に招かれて、「一切経」の
校合突き合わせをされていま
した。昼になったので、食事が
供されます。その食事は精進
料理ではなく、魚や鳥の肉が
使われたものでした。そこで、他
の僧侶たちは、袈裟を脱いで食

事をしていいる中で、親鸞聖人
一人が袈裟をつけたまま食事を
しているのです。そこに、当時
九歳であった北条時頼がやつ
て来ました。そして、聖人に尋
ねました。「他の僧たちは袈裟を
脱いでいるのに、そなたはなぜ
袈裟をつけたままなのか？」と。
「あの人たちはご馳走を食へつけ
ておられるので、肉食の時は
袈裟を脱ぐものだと知っておら
れます。私はこういいうご馳走
をいただくことは滅多にないの
で、あわてて食べて、袈裟を脱ぎ

わす ことば
忘れたのです」と答えました。
時頼は、そんな返事は嘘だと思
いましたが、その時は引き退った
のです。しかし、のちに同じ場面
を見て、時頼は同じ質問を親鸞
聖人にしました。聖人は、今
度も、「脱ぐのを忘れたのです」
と答えましたが、時頼も 今度
は承知しません。そんなにたび
たび脱ぎ忘れるはずがない。
本当のことを言えと迫ります。
そこで聖人は、九歳の子供に
こう語りました。「私は戒を破
つて肉食しています。生きもの
を殺して食へるからには、この生
きものたちを成仏させてやり
たいのです。そこで、袈裟の功德
で成仏させようとして、袈裟を
つけたまま食事をしているの

かんじょう
感動をおぼえたといえます。
わたし
私たちは、動物にしても、植
物にしても、その大事ないのち
を奪っているのです。動物の肉を
食へてもいいと思います。ただ、
その時に、親鸞聖人のように
しっかりと、食へ物となってくれ
るいのちに感謝して、「ありがと
うございます。あなたのいのち
をいただきます」と言いつつ食
べるのです。「ほとけさまの
いのちをいただいているつもりで
食へる」、私はそうところがけな
がらいただきたいと思えます。
そして、それを一人一人がここ
ろがければ、食品ロスの削減に
もつながると思います。
（「仏教とっておきの話」参照）